

2020年は妄想香港旅行

『香港ウンチク話』 ブログ管理人 隅田 香織

「今日のオフ会は紅磡街市の上で海鮮料理だよ！お店に直接来てね！」

これがいつ現実になるのでしょうか……。2020年、コロナウイルスの感染拡大により海外旅行が不可能となりました。大好きな香港に行けない中、どうしたらブログ『香港ウンチク話』のフォロワーさんに楽しんでいただけるだろうか？

そこで私が思いついたのが『妄想香港旅行』の企画でした。「妄想香港旅行を企画して、一緒に香港へ行った気持ちになってもらおう！せっかくだから現地でオフ会をやろう！」とお気に入りのレストランやお店、新しくオープンして気になっているところ、お気に入りの交通機関、現地オフ会などを盛り込み、お盆休みに3泊4日のプランを立て、ブログとSNSでご紹介致しました。

この期間のSNSはコメントが倍増！行きたい！食べたい！恋しい！そんな声ばかりで閲覧数もいつもの3倍

近かったです。特に現地オフ会はコメント欄が盛り上がりしました。冒頭に書いた通り、紅磡街市の上で海鮮料理を設定しました。「道間違えちゃったので少し遅れます！」「仕事終わってからかけつけてもいいですか？」そんなリアルなコメントでSNSが埋まりました。本当に一緒に旅行をしているようで、コメントを返しながら私も妄想気分になってしまい、翌日急遽『妄想飲茶ランチオフ会』を設定したくらい！私も楽しかったのです。

妄想香港旅行中のSNSはフォロワーさんたちの思い出話だったり、オススメだったり、いろんなコメントが飛び交いました。これほどまでに私たちを虜にする「香港の魅力」とは一体なんなのか？私を感じている香港の魅力は4つあります。〈美味しい料理〉〈香港人の生活に触れる街歩き〉〈アトラクションのような公共交通機関〉〈おせっかいで親切な香港人〉。

この4つの香港の魅力と同じように感じてくださっているフォロワーさんも多く、だからこそ『妄想香港旅行』を楽しんでいただけたのかもしれない。

香港に行けるようになったら、絶対に『リアル現地オフ会』を実現させて、日本各地の香港好きさんと香港在住の方々と交流したいと思っています。実現出来たら嬉しくて泣いちゃうかな。

隅田香織 / 1999-2001年に香港居住。2020年、香港在住の中医学博士・楊さちこ氏と新しい香港サイト「レッツゴーホンコン」を開設。
<https://note.com/letsghongkong>



2021年1月発行（禁無断転載）

目次

| | |
|---|--|
| 2020年は妄想香港旅行.....1 | 関西：香港の投資家達.....9 |
| 「香港日本人学校OBOG再交流の広場」（オンライン座談会）第2回.....2 | 中京：私の香港回顧録（1）.....10 |
| 私と香港ビジネス.....4 | 九州：香港デモの4つの特徴.....11 |
| 第15期CMMS「華人経営研究講座」の修了式について.....5 | 山形：香港への山形県産農産物の輸出実績及び宿泊者数の推移.....12 |
| オンラインセミナー「香港のビジネス最前線と日本企業にとっての事業機会」.....6 | 北海道：北海道と香港の架け橋.....13 |
| 連合会・各協会便り | 宮城：学生部による「香港宮城交流会」を開催 第94回理事会・事務局会議を開催.....14 |
| 全国：「第21回香港フォーラム」「第9回全国連合会総会」 | 沖縄：EGL沖縄小島博子社長インタビュー.....15 |
| 開催報告.....7 | 広島：香港ビジネスセミナーの開催.....16 |
| 東京：香港和僑会とのコラボレーション.....8 | 新潟：新潟日本香港協会について.....17 |
| | 高知：2020年の活動を振り返って.....18 |

「香港日本人学校OBOG再交流の広場」(オンライン座談会) 第2回

ゲスト：井澤（河原）弘子さん、石川元一さん、
 海老原洋一さん、川添真也さん、太中直子さん
 司 会：伊東正裕（NPO法人日本香港協会 広報委員）
 構 成：平野純一（NPO法人日本香港協会 広報委員）
 撮 影：ジャッキー鶴丸（NPO法人日本香港協会 広報委員）



(上段左より)
 井澤さん、石川さん、
 海老原さん
 (中段左より)
 川添さん、太中さん
 (下段左より)
 伊東、平野



香港日本人学校
 校章

伊東 今回は1963-64年生まれ世代で、70年代に香港日本人学校に通った方々にお集まりいただきました。まず当時の香港の第一印象について聞かせてください。

井澤 私は空港に着いて、街並みのごみごみした様子にびっくりしました。

石川 やはり蒸し暑さと汚さ、そして特有の臭いですね。

海老原 見たこともない高層ビルには驚きました。あと、巨大なアフリカマイマイを見た時はとんでもない所に来たと感じたものです。

川添 私は海底トンネルの入口がSF的なのに惹かれました。家が27階建てのマンションの21階だったので景色がよかったです。

太中 独特の臭いは最初は嫌だなと思いましたが、2週間くらいで自分の中ではちょうどよくなりました。温暖な気候は自分に合っていたと思います。

——香港の名所や印象に残る訪問地は何処でしょうか？

井澤 絵はがきになっているような、超高層ビル群やピークから観る100万ドルの夜景ですね。

海老原 子供たちだけの冒険はご法度でしたが、親に内緒でいろいろ出かけました。トラムの旅がスリリングで冒険心をあおられましたね。

川添 子供だけでスターフェリーに乗って九龍側へ渡っていましたね。兄とネイザンロードにある鉄道模型店に「メルクリン」を買いに行っていました。学校の遠足や剣道部の校外学習で離島などへも行きましたね。

石川 私もスターフェリーで当時ブームだった切手を買いにオーシャンターミナルまで行きました。スターフェリーは1階には乗っちゃいけないと言われていましたが、親には内緒で乗っていましたね。

太中 日本ではありえないですけど、子供だけでタクシーに乗ってよく出かけました。ベンツのタクシーがありましたよね。慣れてくるとバスに1人で乗って出かけていましたが、いろんな景色を見られたのはよかったですね。家からはカイトック空港に着陸するコンコルドも目撃できました。

——香港日本人学校の思い出を聞かせてください。

石川 ビルの一室から新校舎に移った時は、校庭やプールがあるのが嬉しかったですね。5年生の時に児童会の役員選挙に立候補して、副会長に当選したんですが、のちに勤めた銀行の後輩に香港日本人学校OBがいて、あの選挙では私の1票で当選できたんですよと恩を売られて困りました(笑)。

海老原 スクールバス通学は初めての経験で、車内では上級生が下級生の面倒を見る習慣がよかったです。学校は若い先生が多かったですが、授業は日本国内より水準が高かったし、水泳の授業はスパルタでしたね。

太中 私は部活でバレーボールをやっていましたが、お母さん方の中にその昔すごい選手だった方がおられて、指導してくれました。

川添 旧校舎ではウサギを飼っていて、飼育係が面倒を見ていましたね。私は剣道部でしたが、大会で一度だけ優勝できた時の母の喜ぶ顔が忘れられません。校庭ではよくフットベースボールやサッカーをやっていました。

井澤 私はずっと女子校育ちで初めての共学だったので、男子のやんちゃぶりが新鮮でした。4年生の時に学年の歌を作ったことがあり、私の作曲が採用されて嬉しかったことを覚えています。

——休みの日や放課後にはどのようなことをしていたのでしょうか。

川添 夏は父の会社の関係で行くランチピクニック（船遊び）でしょうか。クーラーボックスのジュースが飲み放題なのが夢のようでした。あと父がよく車で沙田まで食事に連れて行ってくれました。

太中 水泳が好きだったので、日本人学校のプールが水不足で使えなかった時は、アイランドスクールのプールで泳いでいました。香港は暖かいので半年間は外のプールで泳げたこともあり、日本に帰ってからもしばらく落ちないほど日焼けしていましたね。

井澤 学校の休みにはタイやフィリピンへ旅行しましたし、レパルスベイやタイガーバームガーデンも思い出深いですね。デパートは大丸がありましたが、地元の永安百貨と中国百貨も利用していました。

石川 私と海老原くんは熱帯魚の飼育が趣味で、海老原

くんは熱帯魚の子供を生ませて増やすのが得意だったんですよ。

海老原 熱帯魚は香港で初めて飼うようになったんです。亜熱帯なので冬以外は水を温めなくても飼えたし、値段も安かったですね。リーガーデンホテルの裏に熱帯魚の店があって、学校の帰りに寄っていました。

——香港のグルメに関する思い出を聞かせてください。

井澤 やはりワゴンの飲茶です。テーブルクロスを汚してよいというのが驚きでした。母は陸羽茶室のことをよく話していましたね。

川添 松竹楼へはよく行きました。餃子としゃぶしゃぶがおいしかったです。上海料理の老正興は日本人の間で人気でした。沙田でエビを殻ごと揚げて食べる料理が印象的でした。

太中 私は、カバーチムニーのフランス料理と、ペニンシュラホテルのチョコレートサンデーの味が忘れられません。

海老原 フルーツの豊富さには驚かされました。オレンジ、マンゴとハニデューメロンはよく食べました。私は苦手でしたが、パパイヤもありました。

太中 私が好きだったのは甘い干し梅です。最初はなんだろうこれと思いましたが、やみつきになりましたね。

石川 私も干し梅好きでした。あと月餅が好きで、今でも通販で取り寄せています。卵入りのが好きなんです、なかなかないんですよ。

——香港や香港人の特徴、魅力は何だと思いますか。

川添 超高層ビルと猥雑な街並みが混在しているところが香港の魅力でしょうか。当時は新界に行くとき水牛がいました。近代的な高層ビルと水牛は“不調和”ですが、それが香港らしさなんですね。

井澤 同感です。非常に狭い場所なのにエネルギーの大きさを感じます。

石川 香港人は携帯で話す時も声が大きいですね。それだけ活力があるんだと思います。

海老原 広東語の会話は激しく聞こえるんですね。

太中 新界の田舎で、小さな男の子が拙い英語で、でも堂々と鶏の足を売っていたのを見た時、人間が生きていく迫力を感じました。今でもはっきりと記憶に残っていますが、彼は大富豪になっているかも知れません。

——香港生活を通じてどのようなことを学びましたか。

石川 初めて海外に住み、外国とはこういうところだと学びました。普段は広東語でも、ちゃんと英語も話せて、グローバルとはこういうことかと小さい頃から感じていました。おかげで、就職してからの海外赴任にも抵抗がなかったです。

井澤 私の父は銀行に勤めていたのですが、現地提携先銀行の頭取がものすごい豪邸に住んでいる一方で、水上生活者もいて、非常に大きな貧富の差があることを知り

ました。今思うと貴重な経験だったと思います。

海老原 日本人以外の人との習慣の差をリアルに感じたことが大きかったです。ある時、インド人のウオッチマン（マンションの守衛）の子供とおもちゃのことでちょっとしたトラブルになったんですが、その後に、ウオッチマンがライフル銃を持って家に乗り込んで来た時には肝を冷やしました。

太中 私は水資源の大切さですね。香港ではトイレの水も海水を浄化したものだと聞きました。

川添 英国人家庭教師に英会話を習っていましたが、これは日本ではできないことなので、国際交流の良い経験になりました。

井澤 私は1年3カ月しか住んでいませんでしたが、今回、改めて香港について考えることができたことに感謝しています。

石川 我々の代は海老原くんが幹事として同級生の輪を広げてくれています。私が勤めた銀行は途中で合併したのですが、相手行にも香港日本人学校OBがいると仲良くなって“行内融和”につながりましたね（笑）。

海老原 みなさんの協力もあって輪が広がっているのはうれしいです。異国のある意味閉ざされた環境で育まれた友情は何ものにも代えがたいと思います。

川添 50年近くたっても変わらずに付き合える友達や先生との絆は大切にしたいですね。SNSでのつながりも増え、今後は世代を越えた同窓生の方々との交流にも期待しています。

太中 このように集まっていただけの方はみな香港への愛がある方だと思います。あの頃の香港の同じ空気を共有した友達と今でも交流が持てるのは有難いことです。

伊東 本日はお忙しいところ有難うございました。いずれリアルに皆様にお会いする機会があればいいと思います。（一同頷く）



1977年5月Jardin's Lookoutへの遠足集合写真

私と香港ビジネス

NPO法人日本香港協会会員 桜井 知治

1970年9月、家族で3年過ごしたカルカッタ（コルカタ）からの帰路、香港に立ち寄った際に見た夜景の美しさは、以後記憶の中に鮮明に残っている。大学を卒業した1981年、商社に入社し、以来40年近く海運造船業界に携わってきたので、世界の一大海運都市である香港には、出張で幾度も来ていた。そんな香港に2018年4月から暮らすこととなった。駐在期間は、この6月の帰国までの僅か2年余りだったが、香港日本人商工会議所会頭を2期務めたこともあり、数多くの方々との出会いや様々なイベントへの参加の機会に恵まれた。一方で政治的に揺れ動いた時期にも重なり、香港の光と陰を垣間見ることにもなった。

着任当時の香港ビジネス界では、大湾区構想が大きな話題になっていた。香港では、この構想によりいずれ香港が中国の一地方都市として埋没してしまうという懸念を抱く声もあったが、18年秋に、香港広州高速鉄道と香港マカオ珠海大橋の完成により交通インフラが整い、広州や深圳、仏山、東莞等広東省の都市が香港のような国際色豊かな都市に変貌し、ニューヨークや東京を凌駕する一大経済圏に成長していくことに大いに期待を抱かせた。香港政府も、米中貿易摩擦により18年後半から経済成長に陰りが見え始めていたこともあり、この構想を経済の起爆剤として力を注いでいた。特に、日系企業に対する期待は高く、19年2月の中国政府による同構想の正式発表後初めての海外シンポジウムを4月、東京で開催した。我々商工会議所も、総領事館からの要請もあり、同構想の推進策として「3省地域内での人、モノ、金、情報の自由な往来とアクセス等の要望書」を香港政府に提出した。

この構想では、新華集団主席ジョナサン・チョイさんが大湾区起業家連盟会長として大いに活躍されていて、我々日系企業にとっても頼もしい存在であり、香港政府も頼りにしていたことが窺えた。同氏は、全国政協常務委員、香港総商会会長でもあり多忙を極める香港財界重鎮のひとりだが、親日家であり、常に日系企業の開拓に

も余念がない。チョイさんとは、日系企業を集めての会合を開催するなど、多くの機会でお会いしていたが、自由でしたたかな発想とエネルギッシュな行動にはいつも感服させられた。

第一東方投資集団会長のビクター・チューさんも、そのタフネスさに感銘を受けたおひとりである。同氏は、ダボス会議共同議長を務められた経歴もあって日欧米の経済界に知人も多い。同氏が米中貿易摩擦をテーマとした欧州アジアフォーラムを主催された折に、'80年代当時の日米貿易摩擦との比較論のスピーチを頼まれた時は大いに冷や汗をかいた。チューさんは、200を超える事業に投資されておられるが、一方、昨年からは英国の大学理事長にも就任され、常に幅広い視野で世界の政治情勢、経済や実ビジネスを捉えていて、時には香港政府にも手厳しいコメントをされていた。

商工会議所活動を通して香港政府の方々ともお付き合いさせてもらったが、やはり、キャリー・ラム行政長官にも少し触れておきたい。毎月第二木曜日に行政長官主催の昼食会がある。約80名のゲストは、在香港教育、医療福祉、芸術文化、海外商工会議所を含む経済界メンバー、シーティングは毎回アトラダムに決まり、キャリー・ラム長官の隣となる機会もあった。丁度、18年秋、行政長官就任後初めての日本への公式訪問の直前であった為、日本の話題で盛り上がり、日本のファンであることや自分の服は某日本人デザイナー製、と嬉しそうに話してくれた。19年12月の商工会議所50周年記念レセプションでは、キャリー・ラム長官をメインゲストとして迎え、お祝いのスピーチをして頂いた。式典では、和太鼓の演奏も楽しんでおられたが、会場からの見送りに付き添った際に、「また北京から呼ばれているの……」と言った時の表情は忘れられない。

昨年11月のニュースでは、中国政府により民主派議員4名が資格剥奪となり、それに呼応して多数の民主派議員が辞職するという異常事態を伝えていた。19年6月、逃亡犯条例改正案に端を発した大規模デモ活動が長期化、過激化し、香港社会は混乱し、とりわけ、観光や飲食業を中心に経済は大打撃を受けるに至った。更に、追い打ちを掛けるように、昨年初めからの新型コロナウイルス感染拡大により、世界も、そして香港も苦しんでいる。20年6月には香港国家安全維持法が施行され、一国二制度が危ぶまれる事態となりつつあるが、香港には、世界の人々を魅了する、食や景観、緑豊かな自然、そして活気溢れる多くの街が連なっている。そこには、歴史に翻弄されながらも、したたかで自由な発想と行動力でビジネスを追求し、そして何よりも楽しく日々を生活している多くの人たちが暮らしている。

香港ファンのひとりとして、いつまでも、香港の魅力は失われないと信じてやまない。



香港日本人商工会議所設立50周年記念レセプションにて
(右から3人目が筆者 2019年12月4日)

第15期CMMS「華人経営研究講座」の修了式について

NPO 法人日本香港協会 特別顧問 藤澤 慶彦

新型コロナウイルスの影響で開講が3ヶ月遅れて7月初旬に始めましたが11月26日に無事修了式を行いました。例年であれば理論編から始めて実践編に移行するのですが、今年は日程の関係で実践編10講座を先行させました。にも拘わらず一括受講生10人全員が規定の70%以上受講して修了資格を取得しました。CMMS開講以来の新記録です。これは共催者の二松学舎大学が広くて換気の良い階段教室（定員150人）を手配してくださったことが大きく寄与しています。

各講師の講義を下記に要約してみます。

◆実践編：各界で活躍中の経済人中心の経験談

中国経済：関志雄氏（野村資本市場研究所シニアフェロー）は中国経済の現状と課題を分析して、コロナ後に世界に先駆けて経済が復活すると予測した。松田庄平氏（法政大学経営大学院教授）はデジタル通貨は早く登場するが、人民元の国際化にはなお時間を要するとした。

中国市場攻略：萬歳教公氏（セブン・イレブン・ジャパン顧問）は中国憲法と孫子を勉強して誠意を以て臨めば中国でのビジネスは成功するとの経験談であった。ご子息の萬歳寛之氏（早稲田大学教授）は国際法から見た「香港国家安全維持法」を分析した。

中国企業台頭：中国のBATH（Baidu, Alibaba, Tencent, Huawei）などの現状と課題について後藤康浩氏（亜細亜大学教授、元日経編集委員）と国吉澄夫氏（日中関係学会副会長、元東芝）がそれぞれ分析した。米中貿易摩擦は激化しても米中のプラットフォーマーは相関関係が続くとした。両氏ともデジタル化、AI、5Gで遅れている日本企業の復活の方法を論じた。

香港コネクション：中井邦尚氏（JETRO企画部海外地域戦略主幹）は香港の一国二制度の継続が危ぶまれる中で、香港固有の低税率・自由な物流・柔軟な金融機能は簡単に真似できるものではなく、少なくとも2~3年は代替都市が出現し難いとの予想をした。伊東正裕氏（香港貿易発展局東京事務所長）は一帯一路の現状と課題、そして大湾区の今後の発展を詳細に予測した。

特別講義：浦西友義氏（元金融庁審議官）はアメリカのGAFAを含めた米中の巨大IT企業が今後の世界経済を牽引するとして、ECが小売り、物流、金融の全ての構造を変えると同時に法規制の必要性も増すとした。結局従事する“人”によって決まるとの結論であった。

◆理論編：4つのパラダイムから中国についての本質的分析

国情：田中仁氏（大阪経済法科大学教授）は中国を地政学的に解説した。人口13億人の内90%が漢族で、残り10%が55の少数民族から成り立っている。黒河（黒龍江省）-騰衝（雲南省）線の中に人口の95%が集中している多民族国家である。黄河流域が麦を揚子江流域が米を

それぞれ主食とする多文化国家でもある。園田茂人氏（東京大学大学院教授）は中国固有の社会通念である面子・関係・人情を分かり易く解説した。高橋伸夫氏（慶應義塾大学教授）は中国共産党の

「政策決定機構」がブラックボックス化されているため構造的課題としてその将来性に強い懸念を示した。

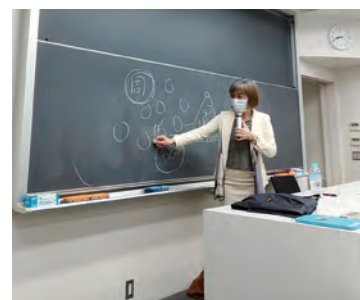
儒教／道教：小島毅氏（東京大学大学院教授）は天思想と公私の概念の日中での違い、牧角悦子教授（二松学舎大学教授）からは儒教の解釈の歴史の変遷と論語の解説があり、横手裕氏（東京大学大学院教授）は道教が儒教・仏教と並ぶ3教のひとつとしてそれぞれ中国社会への浸透ぶりを解説した。

孫子／兵法：湯浅邦弘氏（大阪大学大学院教授）兵法は孫子が考案した不戦の思想であり、その後詭道としての兵法三十六計に発展したと解説。翌週には同教授が支配者の統治原理である韓非子が考案し、秦の始皇帝が実施した信賞必罰とアメとムチを分かりやすく解説した。

華人ネットワーク：濱下武志氏（中国中山アジア太平洋学院長）と奈倉京子氏（静岡県立大学准教授）は華人ネットワークの歴史的経緯と滞在国の多様性・柔軟性を分析した上で、血縁・地縁・業縁を軸とした繋がりや耳慣れない合股概念の解説があった。現在の華人ネットワークの世界的拡がりには日本の企業中心のネットワークに比べると遥かに広範囲で地域的影響力も大きいため、日本企業もこれに対抗するのではなくむしろ活用する方が共存共栄できそうである。

特別講義：修了式では張樹榮氏（当協会顧問）が「香港の現状と将来」を香港人として前向きにしたたかに展望した。

なお、CMMSも今回で第15期を終了したことになります。関係各位のご協力のお蔭で当会の活動の目的である「社会教育の推進と学術文化の振興」を図る意味で一定の社会貢献ができたことを心から感謝いたします。



牧角教授の講義風景



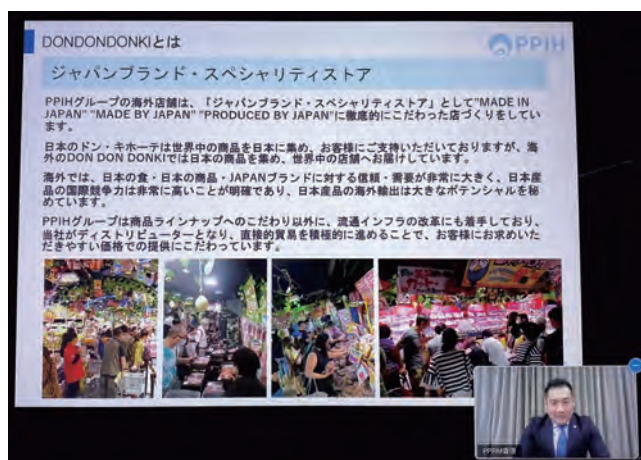
第15期CMMS修了式

オンラインセミナー「香港のビジネス最前線と日本企業にとっての事業機会」

NPO 法人日本香港協会 副会長・ビジネス交流委員長 野島 威

2020年11月17日に、NPO 法人日本香港協会・香港貿易発展局主催、香港投資推進局（インベスト香港）共催で上記セミナーが開催されましたが、日本全国及び香港から200名近くの参加者を集めて大盛況のうちに幕を閉じました。本セミナーは「小売市場としての香港の魅力と今後の展望」と題して、急速に変化する昨今の香港ビジネス環境においてDON DON DONKIを運営されているPan Pacific Retail Management (Hong Kong) Co., Ltd.の竹内三善代表取締役社長、「オンライン・プラットフォームを活用したCovid-19に打ち克つ海外ビジネス手法」と題して、香港貿易発展局の伊東正裕東京事務所所長にご登壇いただきました。

まず、NPO 法人日本香港協会の佐藤征洋会長から開催挨拶のあと、香港現地からのオンライン生出演で、竹内社長より「ジャパンプランドスペシャリティストア」というコンセプトによる店舗展開についてご紹介いただきました。DON DON DONKIは、2019年7月に尖沙咀に1号店を開店して以降、既に香港で5店舗を展開、2021年2月に新店予定の新業態店を含めて、1年半の間に7店舗を出店する急拡大計画が進展中、その発展ぶりにまつわる秘密についてお話をいただきました。



店舗コンセプトを紹介したスライドと講演する竹内三善社長（右下）

驚いたのは、現在売上の約8割が生鮮食料品であること、残りの約2割が非食品であるという販売構成比でした。とりわけ生鮮食料品については、新鮮で美味しいものを安く現地の方に提供することをモットーに他店舗との差別化を図っているとのことでした。そもそも、香港人の日本に対する好感度は最高レベルですので、日本製品は食品に限らずありとあらゆるものに対する理解度や信頼度も高く、コロナ禍で日本に行けない香港人達が、DON DON DONKIで日本のものを買って漁るのも当然のことと思われます。店舗のアイテム数が日本の1/5であるにもかかわらず、3号店（コーズウェイベイ店）の売上が、アメリカと東南アジア、日本も合わせた全店舗の中で1番を記録したことからも、香港人の購買力の凄ま

じさを再認識しました。なお、3店舗合計の日本産牛肉の月間売上高は、円換算で約1.8億円ですので、2021年に7店舗に拡大した際の年間売上予測は約43億円（小売ベース）となり、これは2018年の香港における日本産牛肉の輸入高41億円と比較するとほぼ同額、つまりDON DON DONKI単体で同年の香港の年間輸入総額に匹敵するほどの規模になることが見込まれるそうです。

また、香港では、各店舗運営も地域特性を生かしたテーマをベースに現地スタッフが独自の店づくりに当たっているとのことでした。例えば、ビデオで紹介されたモンレープレイス（將軍澳）店は、家族連れの来客が多いため、ピクニックをテーマにしているそうです。なお、レジの数は40台と日本では考えられない規模ですが、新型コロナウイルス対策として買物客が店内で滞留しないよう工夫をこらしています。

竹内社長は今後の展望について、東南アジア市場の重要性を考えると、最大のポテンシャルを有する香港が中心になっていくと指摘、物流ハブである香港に700坪強の自社専用倉庫を借り、ハンドリングの効率化やコスト削減を実現することで、更なる競争力の強化を目指すことを説明されました。また、香港を含む広域経済圏「大湾区」にも言及、市場規模が香港の10倍に相当することから、今後のビジネスの広がりが期待されるとのことでした。また、生鮮食品だけでなく、雑貨など食品以外の日本製品の取扱いも増やす方向であること、50万人を有するアプリの会員を対象にECビジネスを展開する計画についても紹介があり、今後アジア全域に大きく羽ばたく同社の可能性に私自身も心躍らされました。

香港貿易発展局の伊東所長からは、世界と日本のECに関する市場動向説明の後、香港貿易発展局が運営するECサイトhktdc.com Sourcingとオンライン展示会Autumn Sourcing Week Onlineについてのプレゼンがありました。

コロナ禍の影響により、海外における展示会や商談会が軒並み中止或いは延期となっている状況下、販売も調達もインターネットを利用する必要性が高まっています。50年の歴史と50ヶ所の海外事務所を有する香港貿易発展局が提供する、安心して信頼でき、費用もリーズナブルなオンライン・プラットフォームをより多くの日本企業や自治体にご利用いただければと思います。私個人としても、振り返れば香港貿易発展局との付き合いは長く、展示会への参加やソーシングでもお世話になったほか、香港のToy Councilに初の日本人メンバーとして迎えていただき、香港玩具業界の仲間との関係が築けたことが昨日のように思い出されます。日本香港協会の会員の皆様も、是非香港貿易発展局のイベントやネットワークを有効利用して、業績を伸ばす一助とされることをお勧めします。



日本香港協会 全国連合会 事務局

「第21回香港フォーラム」 「第9回全国連合会総会」開催報告

◆第21回香港フォーラム（2020年12月1日～3日）

香港フォーラムは、世界35カ国/地域に跨る46の香港ビジネス協会から構成される香港ビジネス協会世界連盟（Federation of Hong Kong Business Associations Worldwide）の全メンバーが一堂に会する年に1度の世界大会・国際会議で、例年は、香港にて開催されておりましたが、本年度は、新型コロナウイルスの世界的蔓延の影響を受け、初めてのオンライン開催となりました。3日間の主要プログラムにつきましては、世界各地に散らばるアソシエーション・協会メンバーに数多くご参加いただけるよう、ビデオの再上映等を含め時差を考慮した異なる時間帯（朝夕2回）で参加が可能となりました。最終的に、全世界から、会員・非会員合わせて1,100名以上の方々にご登録いただき、速報値では900名超の方々実際にフォーラムにご参加いただきました。日本からは、会員100名、非会員79名、総勢179名の皆様に登録いただきましたが、これは例年どおり、国別では世界No.1の数となりました。

初日のオープニング・セッションでは、香港ビジネス協会世界連盟デニス・チュー会長の開会宣言、香港貿易発展局マーガレット・フォン総裁による歓迎挨拶に続き、香港特別行政区政府ポール・チャン財政長官による香港の最新情報に関する基調講演がありました。その後「変化への対応-ポストコロナの苦境を乗り切る」と題し、ポストコロナにおける重要な転換点について、また「新たな日常」における市況変化の中で、産業別の対処法・課題克服法にフォーカスしたパネルセッションが行われました。

2日目の朝には、主に北米会員向けの初日プログラムの再上映セッション、また午後には「リスクをチャンスに転換する：ニューテクノロジーとソリューションの提案」と題し、変化する環境下で新たなビジネスチャンスを発見し、事業を成功へ導くためのテクノロジーの導入



香港特別行政区政府ポール・チャン財政長官と香港貿易発展局マーガレット・フォン総裁

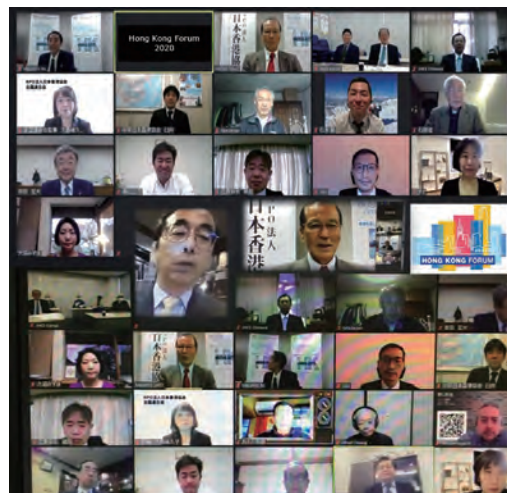
について、それぞれのパネリストが自らの経験を踏まえて情報を共有しました。

3日目の午前中には2日目午後のプログラムの再上映があり、午後にはハイライトとなる「ヤング・エグゼクティブ・プログラム」が開催されました。本プログラムでは、香港の若手起業家が、革新性とテクノロジーを取り入れて、いかに広東・香港・マカオ大湾区の発展をもたらす事業機会を掴むことができたかについて、活発な議論が行われました。関西日本香港協会からは、約60名の上田学園の学生が複数の教室に分かれてオンライン参加、香港の若手パネリストの話に熱心に耳を傾けました。

◆第9回日本香港協会全国連合会総会 （2020年12月1日）

例年は、香港フォーラムの前日に香港にて開催される

全国連合会の総会は、今年からはフォーラム開始前の時間帯を利用して、オンライン形式で開催されました。議長を務めた佐藤征洋全国連



日本香港協会全国連合会総会と和田大使兼総領事のご講演（Zoom会議）

合会会長（東京協会会長）、大島維久子監事（東京協会理事）をはじめ、全国各地10協会の代表者、全国連合会事務局長を務めるサイラス・チュー香港貿易発展局日本首席代表が出席し、無事に全ての議事を終えることができました。また、例年ですと、香港フォーラム参加者の皆様にご出席いただく前夜祭（全国交流会）におきまして、在香港日本国総領事館の大使兼総領事にご挨拶をいただいておりますが、今年はオンライン開催となりましたため、総会終了後に、和田充広大使兼総領事をお招きし、香港の最新状況について、ご講演いただきました。僅か15分という短い時間でしたが、事前に会員から募っていた質問に対するご回答についてもおりむ形で丁寧にご説明いただき、大変有意義なセッションとなりました。改めまして和田大使兼総領事に対しまして、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

全国連合会事務局一同、来年こそは、香港現地にて香港フォーラムにご参加いただく皆様と再会できることを心待ちにしております。



NPO法人日本香港協会 事務局長 福井 一

香港和僑会とのコラボレーション

2020年9月21日の当協会理事会におきまして、NPO法人香港和僑会を友好団体として認定する旨の決議が行われましたのでご報告します。香港をベースとしアジア全域にネットワークを広げている同会とは、今後多方面でのセミナーや交流を通じて相互の会員の皆様方に、多岐にわたる情報をご提供できるとともに、両協会を通じた日本・香港間、あるいは香港を経由したアジア各地との間で更なる経済・文化交流の活性化・多様化が可能になると確信しております。

今回飛龍96号の紙面をお借りして、同会のご紹介と同会と当協会のコラボレーションの内容の一端を以下の通りご紹介します。

香港和僑会のご紹介

- ・設立：2004年
- ・代表：平原奈津子氏、事務局長：木津英隆氏
- ・「和僑」とは？（和僑会の紹介リーフレットから転載）
 - ①「和僑」とは祖国日本を離れ中長期的に異国の地に住み、そこで生計を立てている日本人のことを呼ぶ。
 - ②「和僑」は和僑同士の中に強い連帯の意識を持っている。
 - ③「和僑」は連帯意識をベースとする「共助」の精神を備えている。
 - ④「和僑」は自分たちが住む地域・都市・国家に対して尊敬の念と誇りを常に抱いている。
 - ⑤「和僑」はその地における慣習を尊重し、法令・規則の遵守を常識として理解している。
 - ⑥「和僑」は自分の属する社会に対する責任を常に感じている。
 - ⑦「和僑」は最小の社会単位である家族をもっとも大切なグループと考えている。
- ・活動方針
 - ①海外で起業や組織のリーダーを目指す人達の交流を促進、成功を応援する会員制NPO法人
 - ②香港在住日本人をつなぐプラットフォームとしての役割を果たし、毎月開催の定例会、特別講演会、飲茶ランチ会、和僑BARなどの様々な交流イベントを開催
- ・具体的活動内容
 - ①定例会、②特別講演会&オンライン講演会の開催、③飲茶ランチ会、④和僑BAR、⑤アジアの和僑交流会（アジア大会は年一回 オンラインは随時）、⑥「起業相談室」（ビジネスモデル・事業計画の相談機会の提供）⑦「経営相談室」（経営戦略・経営者の悩みなどの相談・解決）⑧会員限定イベントの主催
- ・ネットワーク

北京・上海など中国各地、ミャンマー、シンガポールなどに広がる。

当協会では決議後、早速同会との連携を開始し、2ヶ月の間で以下の共同実績を上げつつあり、友好団体としての相互の協力体制が立ち上がりつつあります。

・オンライン講演会の相互参加

- ①「一帯一路と大湾区」香港貿易発展局の支援活動のご紹介（2020年10月7日開催）

- ②「香港のビジネス最前線と日本企業にとっての事業機会」（11月17日開催）
- ③「美容と旅行」（11月20日開催）
- ④「香港での暮らしから生まれたベアーズサービスの誕生から2020までの軌跡」（11月5日開催）
- ⑤「和に親しむひとときを」和楽器演奏・日本舞踊（11月22日開催）

など様々な企画・講演を実現し、相互の会員の方々に好評を博しました。

・当協会主催の広東語講座への受講生募集協力

上記「オンライン講演の相互乗入れ」のみならず、昨今のコロナ禍の中、当協会では、当協会主催の広東語講座を、従来の「教室を使用した座学授業」から「オンラインによる授業」に切り替えておりますが、結果として、これまで「東京近郊に限られていた」受講生の募集範囲が、一挙に「国境を超えた世界各地・遠隔地からの」受講生募集へと大きく飛躍、新しい道が開かれる形になりました。

今回のコラボレーションの一環として同会にも受講生募集のご協力を依頼した結果、多大なご協力を得、香港・中国からの受講生参加も実現し、大いに相互協力の成果が実りつつあります。

当協会では、長年の希望であった同会とのコラボレーションが実現した現在、今後のさらなるコラボレーションの強化として、①香港関係の経済・文化関係の情報交換、②各種講演会、セミナーへの相互参加、③文化関係のイベントの企画・立案・共有・実現、④（ポストコロナになる可能性が大きいものの）人的交流の活発化・意見交換の活発化、などを積極的に推し進め、両会の理念の実現を目指していこうと考えております。

今回のコラボレーションに関する会員各位からのご意見、ご要望・お問い合わせなどがございましたら、ぜひ当協会事務局（担当：福井・野原）までお寄せください。皆様の貴重なご意見を可能な限りコラボレーションの拡大に生かして参りたいと考えております。



和僑会主催、日本香港協会・香港貿易発展局共催オンライン講演会の様子（左上：和僑会平原会長、右上：和僑会木津事務局長、左下：香港貿易発展局伊東所長、右下：日本香港協会佐藤会長）



関西日本香港協会 会長 戒田 真幸

香港の投資家達

私は1982~1987年に銀行の香港支店勤務を経験しました。香港とのご縁で永年協会のお世話をしていますが、香港ビジネス協会世界連盟のような優れた国際的ネットワークの一員として、協会のお世話が出来るのを誇りに思っています。今年に入って新型コロナウイルス感染問題が発生した際には、香港政府の迅速で徹底した対応でコロナ感染を見事に抑え込んでいます。香港貿易発展局もオンラインでの展示会、ビジネスマッチング、オンライン香港フォーラムなど実施し、素早く対応してくれています。さすが、「スピードドラゴン」と言われている香港です。

香港から帰国後も、香港で親しくなった人達との交流を続けてきました。香港の友人の紹介で、台湾の有力な銀行の息子さんで香港の金融グループの経営者と親しく付き合っています。金融当局の許認可や規制が厳しい日本と違って、証券会社、投資銀行、投資顧問会社、ヘッジファンドを有し、顧客に対しフルに金融サービスが出来る体制になっています。さすが香港です。ヘッジファンドは順調に運用残高を増やし、長期投資家の運用資産が10年で約倍増、香港で毎年Asian Hedge Awardを受賞してきました。対日不動産投資でも大きな利益を実現しています。最近、深圳にも進出しましたが、大変タフなマーケットで成功するのは難しいと判断して、1年半ほどで撤退しています。中国人は大胆にリスクを取って投資するが、撤退も早いと言われている通りです。

私の知っている香港の有力な会社経営者は、同時に投資家です。投資で大事なことは、「戦略」と「安く買って高く売る」が基本であると単純明快に言います。不動産投資も、将来何が起こるか分からないリスクを考えて、中期投資に徹底しています。香港では、商業ビルを建てたら、フロア毎どんどん売りに出して資金を回収し、回収した資金を新規投資に使います。複利計算の考えです。彼らは地震大国で税金の高い日本への不動産投資には基本的に消極的です。香港一の華人経営者である長江実業の李嘉誠は20年ほど前に東京駅近くの国鉄用地を購入し、1,000億円投資して高層インテリジェンスビルを建設し話題になりました。2年前に京都で長男のリチャード・リーさんに会った際には、このビルは随分前に売却して、今では、東京都内に30棟ほどのビルを所有しているとのことでした。高利回り、リスク分散の考えで再投資したのでしょう。別の友人は、日本企業が北京の一等地に建てた日本人ビジネス客用中期滞在型マンションが銀行の不良債権化しているのを知って、安値の2,000万米ドルで買収、日本人以外の客も滞在できるように改造し儲かる物件にしました。現在の資産価値は5倍になっているとのこと。いい動きだと思いました。

香港の事業家は同時に投資家です。全ての事業は「投資」であるとのしっかりした考えを持っています。税金が安いので、事業拡大に伴って沢山の投資可能な資金ができます。ユダヤ人と一緒に、「利益を生まないお金は持っていないのと一緒に」との考えです。投資の基本は、戦略と「安く買って、高く売る」との考えで、社長が率先垂範、自分の人脈を使って猛烈に働いているようです。又、中国人は「リスクを取らずに利益を得ることはできない」との考えを持ち、新しい事業や投資を大胆に迅速に決断します。日本人は慎重で決断に時間が掛かり、チャンスを逃す、とも言われています。香港人は「ビジネスは人脈が全て」であることをよく分っており、人付き合いを大事にし、やるのが早いです。

2年前に香港フォーラムに参加した際にE-tailing Summitを覗いて見ました。アジアの7か国を対象にしたE-Commerceの事業に成功している女性経営者が、会社設立資金はドイツの企業が出資、「スピードが命」と思っているの、何をしても遅い中国と日本はビジネスの対象から外している、と言っていたのが印象に残っています。投資家が見ても魅力的な事業を計画して投資してもらおうのに注力しているようです。銀行借入に頼るリスクを考えています。

12月2日のオンライン香港フォーラムのパネルディスカッションで、バイオの研究事業に成功している若い男性経営者の話が興味深かったです。米国で、バイオで癌を発見する機械を開発し、将来の巨大な中国市場開拓を目指して香港に移住しています。今回のCovid-19の事態に直面し、20分でコロナ感染の結果が出るコロナウイルス検査キットを開発してHK\$120で販売しています。中国武漢の病院にも納入し、欧州からは500万個の注文をもらっているとのことでした。新製品開発を可能にする核となる技術、製品に必要な部品調達ルートを持っており、迅速に対応できたのが成功の鍵だったようです。

アジア諸国（中国、香港、シンガポール、ベトナムなど）は迅速で徹底した対応でCovid-19問題の対応に成功しています。コロナ後の経済回復も早いでしょう。随分前から「これからはアジアの時代」、「アジアの新しい潮流としての華人ネットワーク」などと言われてきました。コロナ問題が深刻な米国や欧州よりアジアの方が早く回復しそうです。賢く、したたかで、日本と日本人が大好きな香港とはこれからも大切にお付き合いしたいと思います。アジアの人達が欲しいものが何でもある日本。少子高齢化で経済成長が厳しくなる日本。これからはアジアを目指すアウトバウンドに注力しましょう。アジアのビジネス拠点、先ず香港からです。香港貿易発展局と一緒に国際ビジネスに不慣れな協会会員のお役に立てることを願っています。



私の香港回顧録 (1)

私の香港初訪問は、54年前の1966年1月11日、啓徳空港に着陸しました。

西北側からの着陸は、ビル谷間を縫うように市街地の真上を右カーブで降下することがパイロット泣かせの世界でも有名な難着陸空港でした。この空港は1914年、香港植民地政府の許可を得て開発目的でヴィクトリア・ハーバーに面した九龍湾北岸の辺りを埋め立てたことに始まり、その後英国空軍の飛行場となりました。1936年には軍民共用となり「啓徳空港」が誕生しました。太平洋戦争では、降伏したイギリス軍にかわって日本軍が空港を含む香港一帯を占領し、滑走路の修復を行いました。さらに1945年第二次世界大戦の日本軍の敗戦を機に再びイギリス軍によって修復され、それが香港国際空港として成長するに至るとい歴史をもっています。

最初に訪問した頃の香港は、戦後復旧が日本より随分遅れている感がありました。住民は、丘の斜面や街角の空き地に所構わず掘っ立て小屋を造り悪い衛生管理環境の中で生活していました。とくに、石硤尾の難民アパートの劣悪な環境を見るに日本の終戦直後を思い出しました。

また、1973年3月23日に家族全員の三世代5人で香港とマカオの海外旅行を体験しました。明治25年生まれの母親も最初で最後の海外旅行をプレゼントされ、貴重



取壊しが始まったころの石硤尾アパート (2005年)

な体験を喜んでいました。私の妻が、香港の免税品を買いたくて私にせがむので、私もついそれにつられて行くことが多くなりました。宝石、スイス製高級腕時計、ミンクのコートなど、今考えると、日本では高価で手に入れないものを買うことができたのが、当時の香港でした。

食事は店先に吊るしてあるアヒルが嫌いで中華料理は食べたことはありません。行きつけのレストランは尖沙咀(チムサーチョイ)にあった洋食のジミーズキッチンで、よくTボーンステーキを頂きました。東京のステーキハウスで同じものを注文したら、2万円はかかるでしょう。創業1928年で、ペニンシュラホテルとほぼ同時にオープンした老舗中の老舗です。

宿は、プライベートではハイアットリージェンシーによく泊まりました。一方、仕事で訪問した時はカオルーンホテルをよく利用しました。憧れのペニンシュラホテルで食事をとったことはありますが、泊まったことはありません。

香港との貿易業務は、1975年頃から始まりました。そのなかには、瀬戸で作ったコーヒー茶碗を輸出して香港政庁に納品したことがあります。政庁の調達部は北角(ノースポイント)にありまして、よく訪問をしました。中国との直接貿易は1980年代になってからで、毎年4月と10月に香港経由で広州交易会に参加して貿易業務を2018年まで約38年間行いました。

最後に、最近中国が香港国家安全法を発令して、街が落ち着きつつありますが、着々と香港の中国化が進んでいるように見受けられます。そのうえ開発により懐かしい風景が次々と消えて、昔を知る日本人にとって遠い場所になってしまうのではないかと残念な気持ちになります。



啓徳空港着陸寸前の旅客機と九龍

(写真2点とも：NPO法人日本香港協会会員 小柳淳)



香港中文大学大学院博士課程 石井 大智

香港デモの4つの特徴

2020年10月19日に筆者のいる香港と福岡の会場をオンラインでつなぐ形で、九州日本香港協会の会員の皆様に「香港の4つの特徴」と「香港デモの4つの特徴」について講演させていただいた。

スペースの都合で以下では後者についてのみ概要を記したい。

①オンラインとオフラインの相互作用

COVID-19感染拡大前は、オンライン上の議論がオフラインでの何らかの社会運動を引き起こし、オフラインで起きていることがさらにオンラインで数多くの人々にシェアされ、それがさらにオフラインでの運動を引き起こすという繰り返しが見られた。

このような社会運動においてはオンラインで形成された「世論」に基づき、誰かがデモを申請・企画し、参加者もオンラインでの通知を見てバラバラに集まり、それぞれがTelegram上でリアルタイムの情報を見ながら適宜それぞれが異なる役割を果たしてきた。COVID-19感染拡大後は集合規制の強化によりオフラインでのデモ参加者は大幅に減少してしまったが、オンライン上のライブストリームでは数万人がデモを見ており、彼らは擬似的に参加していると言えるかもしれない。

②あらゆる空間の政治化と社会分裂

2019年6月以降、抗議活動は香港中心部以外の郊外でも発生するようになり、さらに抗議者による交通妨害や警察による催涙弾使用の多発により、雨傘運動と比較して多くの人にとってデモが日常化し、結果として政治が日常化していった。政治への関心の高まりはメディアやSNSによる情報流通も大きく増大させた。自身からさほど遠くない場所で起こる社会運動に対して、人々は個々の経験やどのメディアから情報を得るかによって異なる意見を持つようになる。

結果として、香港社会では「黄色」（デモ支持者）と「藍色」（デモ不支持者）の間の色分けが進み、社会は大きく分断され、極性化していった。どのように色分けを行うのかは主観的なものでしかないが、相手が自らと異なる「色」であることが少しでも伺えれば、人間関係上の衝突を避けるためにそれ以上相手が政治的に何を考えているのかについて聞こうとしなくなり、学校、職場、家庭でも分断が広がった。

③自決派と本土派の融合

雨傘運動後の挫折による民主派の分裂は「グローバルで普遍的な価値」を重視する自決派と、民族主義的な香港ナショナリズムを強調する本土派という形で明確化し

ていった。自決派としては黄之鋒が香港衆志を立ち上げ、本土派としては梁天琦などが本土民主前線で活動した例がある。自決派はあくまで一国二制度の枠組みの中で民主化を主張しているのに対し、本土派は香港人と中国人の差異を強調する傾向にある（詳しくは1月発売予定の拙著『小さな主語で語る香港デモ』を参照していただきたい）。

しかし、雨傘運動後の分裂への反省から民主派の間で仲間割れの回避が呼びかけられた。また、先述の社会の分断と極性化によって、両者の差異は見えづらくなった。2020年7月の民主派の予備選挙では、両者が「抗争派」として一体化されて呼ばれるようになり、多くの票を有権者から得た。その一方で長年立法会議員を務めてきた伝統民主派の候補者が支持を集めなかったことも香港では話題になった。

④抗議活動の国際的広がり

香港人移民や留学生を有するヨーロッパや北米の都市を中心に香港民主派への連帯を呼びかけるデモが世界各地で起きた。各国の政治家に対しロビイングを行う香港人も少なくない。日本でも東京や大阪などでデモが行われ、東京の香港人留学生グループの中には国会議員へのロビイングや議員会館での集会を行っているグループもある。

①のポイントとも関わるが、オンライン上への社会運動の拡大は、デモの存在を国際社会にアピールするためという側面もある。様々な言語でデモ支持者の主張を伝える「文宣」が作成され、SNSなどで拡散された。日本語話者向けには特にTwitter上で多くのデモ情報が発信された。香港でTwitterはメジャーなSNSではないが、日本のアニメ・アイドル情報を得たい香港人ファンがデモ前から多く利用しており、その中には日本語を理解できる人も少なくなかった。それらの香港人が、デモ開始後にTwitter上でデモ情報を日本語で多く発信するようになった。なお、これらの発信は若年層によるものが多く、結果として民主派寄りのものが多かった。それに加え在香港日本人の発信も増え、Twitterがデモのリアルタイムの情報を日本語で得るのに一番容易な場所となった。

■質疑応答

質疑応答では香港国家安全維持法による日本企業への影響について質問があったが、筆者の見解も『飛龍』の前号に他の方々が書かれているように現時点では限定的だと考えている。しかし、それは体制側が日本企業に敵意を向けないことやコモンローが現在のレベルで維持されていることが前提だ。



山形日本香港協会 事務局長 長沢 侑

香港への山形県産農産物の輸出実績 及び宿泊者数の推移

◆はじめに

2017年2月、山形日本香港協会が新たな組織として再設立された背景には、香港が日本の食品・農林水産物輸出先のNo.1になっていること、山形県産農産物の輸出のうち香港が1/3を占めていること、山形県への香港からの観光客が年々増加していることがあり、香港への農産物、加工品、工芸品輸出や香港からの観光客誘致活動の更なる活性化を図りたいということがありました。

◆香港への山形県産農産物の輸出

まず、山形県産農産物の香港への輸出における過去数年の実績の推移を、データに則しながら、見ていきたいと思えます。皆様には既にご存知のことと思えますが、山形県は「果樹王国」と称され、豊かな自然と四季折々の自然の恩恵をいっぱい受け、生産量、種類ともに、どれをとっても全国有数の果樹生産県となっております。佐藤錦や紅秀峰に代表されるさくらんぼをはじめとして、ラ・フランス、ぶどう、庄内柿、刈屋梨、桃、りんごなどの果樹栽培に適した気候風土に恵まれており、甘味の生成に欠かすことのできない昼夜の寒暖の温度差がその美味しさを育てています。また、果物以外にも、雪若丸やつや姫などのブランドが知られている米、米沢牛や蔵王牛などのブランドが知られている牛肉なども、高い人気を獲得しております。

山形県の独自調査（出典：県産農産物輸出状況調査）によると、山形日本香港協会が設立された2017年以降、香港への輸出は順調に伸びており、再設立前の2016年と比較し2018年度は約2倍の伸びとなっています。香港への2018年度の輸出量（610トン）の主要な品目は、米504トン、桃33トン、牛肉24トン、りんご19トンの順となっています。

2019年、2018年と香港を訪れた際に、現地のスーパーマーケットなどを視察しましたが、山形県産農産物が販売されているところを見ることができました。今年度は、新型コロナウイルスの影響により、対面での商談や現地展示会への参加というような、これまで実施してきた県産品の紹介方法が取れない状況にあります。DX（デジタルトランスフォーメーション）を用いた新たな方法を、香港貿易発展局や日本香港協会全国連合会、その他関係



さくらんぼ

機関との密な連携を図りながら、当協会といたしましても、会員の方々をはじめ県内企業のバックアップ支援を行っていききたいと思います。

◆香港から山形県へのインバウンド実績

続いて、香港から山形県へのインバウンドの実績を見ていきたいと思います。山形県は蔵王の樹水をはじめ、雪国として、雪の降らない香港の観光客を魅了しています。なかでも香港にもファンが沢山いる、宮崎駿監督のジブリ映画『千と千尋の神隠し』のモデルにもなっているといわれている銀山温泉（尾花沢市）は、優れた泉質や歴史的な街並みで、世界的にも有名な温泉街としてたくさんの訪日旅行者に知られています。



銀山温泉（尾花沢市）

観光庁のデータ（出典：宿泊旅行統計調査）によると、山形県を訪れる香港からの宿泊者数は、山形日本香港協会が再設立された2017年以降順調に伸びており、2019年度は、2019年6月に発生した「逃亡犯条例」改正案への反対デモがあったものの、新潟空港への直行便（2019年10月から週2便運行。新型コロナウイルスの影響により、2020年2月29日の便を最後に運休中）などがプラス要因となり、2018年を上回る伸びとなっています。2019年のデータを見ると、山形県全体のインバウンド宿泊総数184,760人のうち、香港からの宿泊者数は15,800人、県全体の8.6%を占めています。

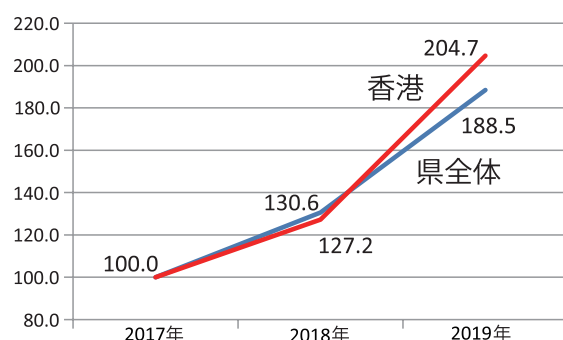
現在は新型コロナウイルス蔓延の多大なる影響により、インバウンドや観光業は大きな打撃を受けています。一日も早く、人の移動制限が解除され、山形県と香港の間の行き来が自由になることを願っております。

宿泊者数の推移（人泊）

| | 県全体 | うち香港 | 伸び率 |
|-------|---------|--------|-------|
| 2017年 | 98,040 | 7,720 | 100.0 |
| 2018年 | 128,020 | 9,820 | 127.2 |
| 2019年 | 184,760 | 15,800 | 204.7 |

出典：宿泊旅行統計調査（観光庁）
※従業員数10人以上の宿泊施設が対象
※暦年（1～12月）で集計

2017年（暦年）を100とした場合の宿泊者数の伸び率の推移



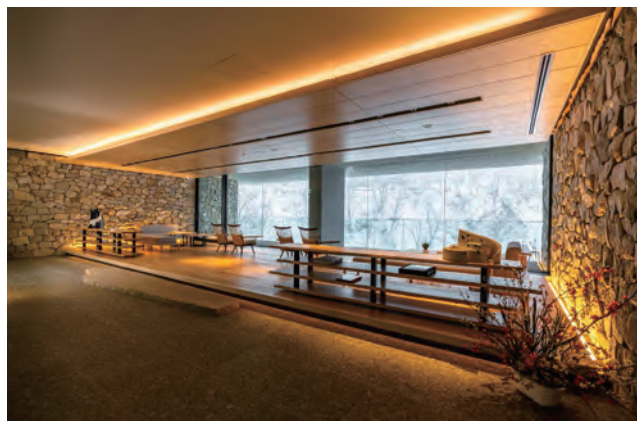


北海道日本香港協会 事務局

北海道と香港の架け橋

現在北海道のニセコエリアには外資系の高級ホテルが多く立ち並んでいますが、その中で古くから当エリアに投資をしているのが香港出身のアイビー・ウーさんです。アイビーさんは約30年前から毎年訪れるほど、ニセコに魅力を感じていたファンの一人でした。2011年の東日本大震災の影響で海外からニセコへの投資がどん底に落ちていた時にも、ニセコの復活を信じ、投資を続けました。そして、見事ニセコが復活を遂げたのは、ホテルシャレーアイビーヒラフが開業した2012年冬からと言われています。

シャレーアイビーヒラフは、一部ペンthouseを兼ねた海外富裕層向けの高級リゾートホテルで、日本有数の泉質を誇るニセコの天然温泉や北海道食材を使った四季折々の美味しい食事を楽しむことができます。またゲストルームからは、窓一面に広がる羊蹄山の景色を望むことができ、ニセコの豊かな大自然を室内で味わえます。もちろんスキー場もすぐ近くにあるため、ニセコのパウダースノーを満喫することができ、非日常の時間を過ごすことができます。



シャレーアイビー定山溪の雪見台

すことができます。

さらに2019年夏には、札幌の奥座敷と呼ばれ、札幌中心部から気軽に行ける温泉地として人気の高い定山溪エリアにも、シャレーアイビー定山溪を建設しました。こちらは定山溪では初の外資系高級ホテルであり、日本の和の雰囲気と西洋のスタイルを両方味わうことができます。また、ホテルに隣接したヴィラも完成し、2021年初旬に開業を見据えています。そしてニセコエリア内においても、更なる投資の計画が進められています。

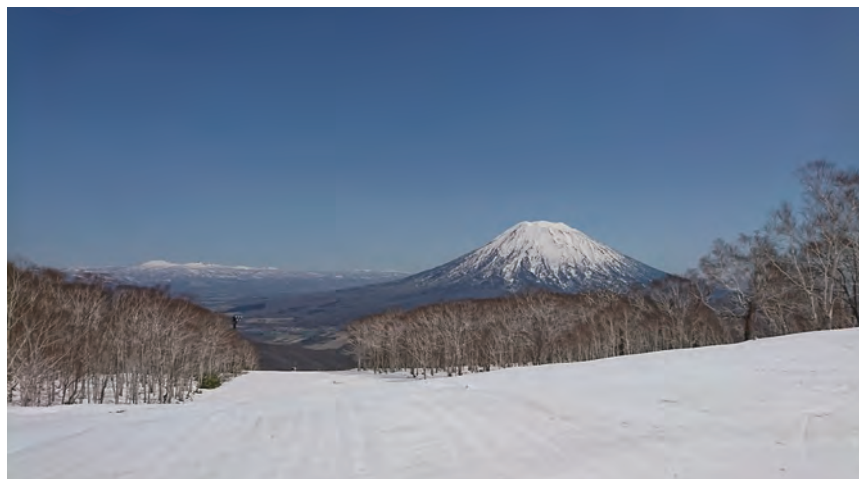
このように、北海道と香港の架け橋として活躍されているアイビーさんは、2015年に北海道庁の「ほっかいどうスマイルアンバサダー」に就任されました。「ほっかいどうスマイルアンバサダー」とは、海外で発信力のある方に北海道の情報を発信してもらい、海外に北海道ブランドを広めるという制度で、香港出身の方の就任はアイビーさんが初めてです。

現在新型コロナウイルスの感染拡大で世界的に人の動きは止まってしまっていますが、ニセコでは海外からの投資が活発に行われています。ニセコは近年、パウダースノーがあるスキーリゾート地として海外からの人気が高まっており、例年であれば街中に外国語の看板が立ち並びたくさんの外国人で溢れ、日本にいながらにして外国を感じられる街です。

今もなおコロナ禍が続いている中、今年の冬はなかなか海外旅行を実現させることはできませんが、ぜひ日本国内で海外気分を味わえる北海道ニセコエリアへ足をお運びいただくのはいかがでしょうか。



シャレーアイビーヒラフの外観



5月のヒラフスキー場から望む羊蹄山



宮城日本香港協会 事務局

学生部による「香港宮城交流会」を開催

2020年3月、本協会にて新たに誕生した学生部は、香港からの留学生を含む県内の香港好きが集まって、新型コロナウイルス感染拡大下の現在はオンライン開催を中心に、毎月第1日曜日の夜に交流活動を行っています。

7月は「旅行」をテーマに13名の参加者が集まりました。香港の日本語学生からは、日本語の「すみません」にあたる「唔該 (m4 goi1)」といった言葉や、「雲吞麵 唔該熱的 (雲吞麵熱くしてください)」など、様々な旅行の場面での便利な言葉やフレーズを、日本語プレゼンテーションを通じて学びました。

8月は、8月2日(日)に「夏」を題材に、13名が広東語・日本語を学びました。夏は日本酒も美味しい季節です。宮城が誇る浦霞(佐浦酒造)や雪の松島(大和蔵酒造)などの宮城そして東北の地酒の特色について、香港人の参加者も熱心に耳を傾けていました。

続いて9月6日(日)には、12名の参加者を得て、日本でも人気の心理ゲーム「人狼」で交流を深めました。人狼ゲームは会話型心理ゲームで、参加者を市民と人狼の二つのチームに分け、それぞれのチームが勝利を目指します。初めての人も多かったのですが、すぐにルールに慣れ、香港の参加者も日本語で高度な心理ゲームを楽しみました。

10月4日(日)には、香港に関するクイズゲームと、香港人学生による香港のグルメ紹介の2本立ての企画交流会に11名が参加しました。「雞蛋仔 (gai1 daan2 zai2)」や「米線 (mai5 sin3)」など香港を代表するB級

グルメが紹介され、各参加者が自身の香港観光時の体験や、自分のお気に入りのお店の情報をシェアしました。

11月1日(日)には、14名が集まり、日本語の表現力を競う「はあって言うゲーム」を通じて交流をしました。日本語の「はあ」といった表現には



「米線」を説明する学生のスライド

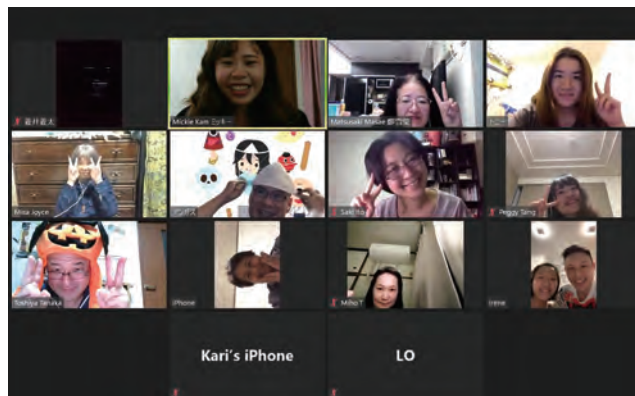


11月の香港宮城交流会の宣伝ポスター

様々な種類があります。落ち込んだときの「はあ」、怒ったときの「はあ」、失恋してしまったときの「はあ」など、

どの場面で言う「はあ」かを当てることはとても難しいです。「はあ」以外にも「そんな」や、「にゃー」などといった言葉をテーマに、日本語の表現力を磨きました。

発足から約9か月が経ちましたが、これからも学生部として、香港の魅力を日本・宮城へ、また宮城・日本の魅力を香港の若い世代に伝えていきたいと思っています。



ZOOM会議の状況

第94回理事会・事務局会議を開催

11月20日(金)、第94回理事会・事務局会議を開催しました。本会議では、来たる第21回香港フォーラムについて、参加者の紹介や当日の流れなどを打ち合わせしました。宮城からは、合計21名(事務局若手スタッフ3名を含む)が参加します。初めてオンライン開催となった香港フォーラムですが、ヤング・エグゼクティブ・プログラムに参加する東北大学の学生会員などは、「オンラインで、仙台にいながら参加できるのはとても助かります」と、こうした現状をむしろ好機として捉え、新しいビジネスを学ぶ意欲をにじませていました。宮城日本香港協会としても、万全の備えをし、会員や若手の皆さんのお力になれるよう努力してまいりたいと思います。



第94回理事会・事務局会議の様子



沖縄日本香港協会 事務局

EGL沖縄小島博子社長インタビュー

沖縄県においては、文字通り観光産業が県のリーディング産業となっていますが、新型コロナウイルス感染が拡大した2020年3月以降、国内の入域観光客が大幅に減ると共に、海外からの航空路線はすべて運休となり、令和元年度25万8000人を数えた香港からの観光客は、この状況が続くと令和2年度は統計上0となる可能性もあります。

このような状況の中、香港人の沖縄観光の受け入れ旅行会社最大手であるEGL沖縄の小島博子代表取締役社長に現在の状況と今後の展望についてお聞きしました。

—香港から沖縄県への観光客の状況は。

香港の方は旅行が好きで、特に日本、その中でも沖縄は人気が高いです。航空会社としては何度か飛ばす計画はありましたが、その度に感染の状況が悪くなったり、国の問題があったりして、航空便は3月から停止しています。航空会社から何度も予約表が送られてきましたが、その度に予約してキャンセルするという状況が続いており、非常に残念な気持ちであり、厳しい状況が続いています。香港の旅行者は、感染拡大前は当社が取り扱っているだけでも毎月約2,000人はいて、売上の主流でした。EGL沖縄は香港の旅行会社と組んで作った会社です。今はそこが身動きとれない状況となっています。

2019年は香港でデモもありましたが、その時でも旅行需要の落ち込みはなく、沖縄に多くの方が訪れていました。沖縄にホテルも建てましたが、EGLが出資しているホテルとして沖縄は2件目となります。それだけ沖縄に対する期待も高いと思います。

—新型コロナウイルス収束後の見通しと沖縄観光の魅力・ポテンシャルについて。

見通しは、正直言えば東京オリンピック後になると思います。航空会社の見通しとしては、3月から再就航の計画をしているようですが、それが実現するかわかりません。しかし収束後も沖縄の人気は変わらないと思います。香港の方は沖縄の海や自然に憧れもあり、直行便があつて最も近い日本です。色んな美味しい店を調べて個人で行く方もいて、近い日本として人気があります。直行便さえ復活すれば、真っ先に復活すると思います。

—以前から計画されていたホテルが12月1日にオープンしました。ホテルの特徴について教えてください。

新たにオープンした「沖縄逸の彩(ひので)温泉リゾートホテル」は、来日観光客を主なマーケットとして計画しました。ホテルは大阪の「王宮」という会社が運営しています。おもしろい取組みとして、朝の10時から夜の10時まで宿泊者に飲み放題を提供しています。また朝食、夜の9時から10時までラーメン食べ放題が付



沖縄逸の彩温泉リゾートホテル

いています。ラーメンは香港の方に定着していて、日本食としても人気があります。ホテルには温泉も出ています。今は非常に苦しい時期ですが、このようなサービスは継続して差別化を図っていきたくて考えています。

世界と日本の架け橋となるようなホテルを作りたいというコンセプトがあり、他の県や沖縄県内の方にも喜んでもらいたいという目的をもって運営しています。ホテルの立地が、文教地区で学校の隣で繁華街のそばということもあり、ホテル宿泊者以外の方も利用できるように足湯も作っています。地域に根差したホテルとして皆さんに喜んでもらいたいです。

—旅行部門の業績が厳しい中、新たなビジネス展開もされていると聞いています。

旅行業は平和産業なので経済・社会情勢の変化を受けやすく、ビジネスに対する影響も大きいです。そのリスクを減らすとともに社員、会社を守るためのもう一つの柱を模索していました。海外との取引を利用し、物流・物販ビジネスを手掛け、様々な商品を探していました。

2019年、アメリカで売れている自動除菌ロボット「ロックボット」を日本で売らせてもらうようメーカーと交渉しました。それがコロナの感染時期と重なり、除菌ということに非常に関心が高まりました。直販で2020年7月から売り始め、地元のデパートで販売した際は、即日完売しました。9月に那覇市の助成を受け、大阪ギフトショーに出展させていただきました。そこでグランプリをいただき、色々な商談に繋がって、那覇市長にもすごく喜んでいただきました。現在もギフトショーで繋がったバイヤーから注文も入りますし、商社も買い取ってくれるので、香港からの旅行需要の回復を待ちたいと思います。



ロックボット

HIROSHIMA

広島日本香港協会



広島日本香港協会 事務局 木村 将隆

香港ビジネスセミナーの開催

広島日本香港協会では、毎年開催している香港ビジネスセミナーを、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、初めてオンラインによるライブ配信での実施となりました。また、オンラインでの聴講ができない方に対応するため、会場でセミナーの聴講ができるように対応しました。

今回の香港ビジネスセミナーは、香港の最新経済動向および香港進出企業による海外展開の取組みをテーマに、2020年9月23日（水）に広島市内で、公益財団法人ひろしま産業振興機構との共催により開催しました。

第1部では、株式会社時事通信社解説委員兼編集局総務西村哲也氏から、「香港国家安全法」と題して、香港国家安全法が施行された香港の最新情勢、今後の香港経済の動向、「広東・香港・マカオ大湾区」（グレーター・ベイエリア）計画における香港の役割についてご講演いただきました。

香港国家安全法は、国籍や、人種を問わず、香港でビジネスを行う企業や、そこに住む外国人にも関わることから、参加された多くの方が関心を示されていました。香港国家安全法の制定経緯について、特に、歴史的背景とその時代における主要人物、それぞれの人物の相関関係などについて、わかりやすく解説いただき、香港を取り巻く環境を、より一層深く正確に理解することができました。



時事通信社 西村講師

第2部では、ヤマトホールディングス株式会社執行役員海外戦略担当梅津克彦氏から、「ヤマトグループの香港事業のご紹介ならびに香港進出企業の事例にみる海外展開の取組み」と題して、ヤマトグループの香港現地で行っている事業、香港への輸送課題、輸出拡大の取組みについてご講演いただきました。

同社は1919年の創業以来、日本で初となる路線事業

といわれる本格的な定期便や、クロネコでおなじみの宅急便の開発など、時代のニーズにこたえるイノベーションの創出を続けています。香港現地の取組みでは、宅急便・ロジスティックス・保冷倉庫各部門の一体化による、保冷一貫物流の事例や、香港への輸送において、「ヤマトナチュラルエアカーゴ」の開発により、環境に配慮した専用梱包による一貫したコールドチェーンを実現し、最短リードタイムを維持しながらコスト削減と品質アップを実現し、現在のコロナ禍においても、香港向けは8月度で約80トンの輸送があったとのこと。



ヤマトホールディングス 梅津講師

また、輸出拡大を図る今後の取組みとして、一貫した「安全」を提供する環境を構築し、「国際基準の活用」、「物流機能強化の取組み」、「商流構築の取組み」をかけた、特に、「商流構築の取組み」では、地方からの商流・物流ネットワークの構築を都道府県単位で連携協定を締結し、都道府県ごとの最適な物流・商流の構築に取組んでいる事例を紹介いただきました。

このセミナーを通じ、参加者より、「今年最大の関心事である「香港国家安全法」の背景がよくわかった」「香港の情勢について、歴史的観点や、内情などについて理解を深めることができた」「世界展開の取組みの上で、その規模の大きさ、細かい配慮に驚かされた」「グローバル企業のヤマトさんの立ち位置のみならず、零細企業にも通じるキーワードをたくさん頂戴した」「ものの考え方について、勉強となりました」などの意見が寄せられ、両セミナーを通じ、香港の現状と今後の行方、海外展開における考え方と、企業として取組むべき姿勢についてどのようにすればいいか、詳しく学ぶことが出来たセミナーとなりました。

今後も、香港貿易発展局や、関係機関と連携し、皆様により良いビジネスサポートができるように努めてまいります。



新潟日本香港協会 事務局長 大島 和憲

新潟日本香港協会について

2020年7月より、新潟日本香港協会の事務局長を拝命した、大島和憲と申します。私は大学卒業後、旅行会社に入社し、初めての海外添乗の行き先が香港だったこともあり、香港は、数ある土地の中でも特に思い入れのある地域です。この度、その香港と郷土新潟との交流の橋渡し役の一端を担わせていただくこととなり、非常に感慨深いものがございます。

改めてとなりますが、新潟日本香港協会についてご案内申し上げます。

新潟日本香港協会は、2013年3月に新潟県内の民間企業・学校法人が中心となり設立されました。吉田至夫会長（株式会社新潟クボタ代表取締役）を中心に、2020年11月現在、19名の役員により構成され、行政・民間企業・学校法人などの幅広い分野からの会員により構成されています。当協会の特色は、「米どころ新潟」と表現されるように、海外へお米を輸出されている農業生産者や、輸出機会を検討されている農業生産者の方々も多数入会されているというところです。国内市場が縮小している中、

新たな市場へ歩みだそうとする事業者様に対して、香港市場へのビジネス機会を提供していきたいと



香港の夜景を彩るシンフォニー・オブ・ライツ

考えております。香港がお好きな方、香港に関心がある方であれば、どなたでも入会できますので、ぜひお気軽に事務局までお問い合わせください。

◆協会の主な事業

取り組んでいる主な事業としては、以下の通りです。

1. 香港貿易発展局との連携により、香港をゲートウェイとする海外ビジネスの課題解決・ビジネス機会の提供
2. 農産物や食品などの特産品をはじめとした新潟県産品等の輸出機会の提供
3. ビジネスセミナー開催
4. 日本香港協会発行の機関誌「飛龍」の配布

◆2020年度の活動と2021年事業計画

さて、2020年度は新型コロナウイルスの影響で、協会の活動としては非常に限定的なものとなりましたが、そのような状況の中でも実施をさせていただいた活動内容を以下の通りご報告させていただきたいと思っております。

| | |
|----------------|--|
| 2020年5月 | 通常総会（今年度は新型コロナウイルスの影響により書面総会にて実施） |
| 8月27日 | 第12回日本香港協会全国事務局長会議に参加（オンラインにて実施） |
| 12月1日(火)～3日(木) | 日本香港協会・香港貿易発展局共催 香港フォーラム2020に参加（オンライン開催） |
| 2021年2月 | 春節パーティー&セミナーを開催予定 |
| 3月 | 理事会を開催予定 |

また、2021年4月からの「2021年度事業計画」につきましては、今時点での、あくまでも予定ではございますが、以下のように考えております。もちろん新型コロナウイルスの状況等で予測できない側面は多々ございますが、可能な限り、積極的に協会活動を推進していければと考えておりますので、関係各位におかれましては、引き続きご協力を賜りますよう、何卒よろしくごお願い申し上げます。

| | |
|---------|-------------------|
| 2021年5月 | 通常総会・セミナーを開催 |
| 6月 | アジアフォーラムに参加 |
| 8月 | 日本香港協会全国事務局長会議に出席 |
| 10月 | 新潟にて「新潟香港交流会」を開催 |
| 12月 | 香港フォーラムに参加 |
| 2022年2月 | 春節パーティー&セミナーを開催 |

2019年10月30日に新規就航したキャセイパシフィック航空の新潟～香港線は、新型コロナウイルスの影響で、2020年3月4日に、当初の予定より前倒しで運行を終了しました。この新潟～香港線は、キャセイ子会社のキャセイドラゴン航空が水曜・土曜の週2便運航をしていました。ちなみに、2019年10月30日から12月末までの利用者数は約6,400人で、利用率は62.8%。利用者の9割は香港からの観光客でした。

就航直後は香港のデモの影響で想定より利用は落ち込みましたが、2020年1月に入ってからスキー目的の観光客も数多く訪問していました。その後、2020年2月以降、新型コロナウイルスの影響で利用客が激減し、3月に運行を終了し、今に至っております。

新潟空港の海外路線については、2020年11月現在、ソウル便、ハルビン便、上海便、台北便が軒並み運休中という状況です。当協会としましても、「新潟～香港線の復活」という目標に向けて、ウィズ・コロナ、アフター・コロナの時代を見据え、引き続き積極的な活動を進めていく所存でございます。

キャセイドラゴン航空の機材
(写真：NPO法人日本香港協会会員 小柳淳)

引き続きご支援のほどよろしくごお願い申し上げます。



高知日本香港協会 事務局長 横山 公大

2020年の活動を振り返って

明けましておめでとうございます。というご挨拶が果たして適切であるか。世界の状況を鑑みた時に、今なお多くの国や人々、またビジネスに関わる企業や関係者の懸命の努力の中、新年を祝う言葉が不謹慎かもしれませんが、それでも一日も早い収束に願いを込めて、新しい年を迎えられましたことに心からの感謝を申し上げたいと思います。

ちょうど一年前の飛龍では、香港フォーラムにおいて、アウトスタンディング・メンバーシップ・アワードとして、アジア・オーストラリア地区におけるグランドプライズならびにパーセンテージ・インクリーズ・アワードをダブル受賞した事に触れ、この勢いのまま3年連続のアワードも視野に入れた活発な活動に意欲がみなぎっている雰囲気がありました。

昨年には予想もしえなかった日常の変化は、それでも何とかこの時代を切り抜いていこう！という多くの人たちの想いと共に、新しい価値観を生み出し新しい生活やビジネスを生み出しています。

高知協会としましては、本年度総会において、森本会長から「こういう時勢だからこそ積極的に行動する」という指針が示され、総会後も会員相互の交流や経済活動に対しまして文字通り積極的に活動しております。本号では2点紹介させていただきます。



10月の定例会では松島副市長をお招きしご講演をいただきました

まず、10月9日の定例会では、本年度より高知市の新副市長として着任された松島研氏にお越しいただき、ご講演を賜りました。松島副市長は総務省のご出身で、シンガポールを主とした海外勤務も長く歴任され、アジアの経済にも精通されています。見識の広さや深さに加え、幅広い人脈を構築されており、講演会においては用意されていた時間では収まり切れず、会員からはまた聞きたい、もっと深く聞きたいとの要望もあり大好評の講演となりました。現役官僚の最新情報が聞ける場として協会の意義を感じたところです。

松島副市長も香港にはこれからはかり知れない大きなチャンスがあるとおっしゃっていて今後の我々のチャレンジにも大きなご尽力をいただけそうです。



南京中華街にて集合写真

また11月3日には、総勢15名での食を中心とした1泊2日の関西ツアーを企画しました。毎年香港フォーラムを楽しみにされている会員も多く、本場に行けないならせめて国内で香港を味わおう！ということで神戸市の南京中華街にある、香港料理の名店「群愛茶餐廳」にお邪魔し、当中華街の理事長や店主を交えた情報交換も行いました。久しぶりに感じる香港の香りと、本場香港の美味しい料理に参加者の満足度も非常に高かったです。

実は現状を鑑み断念をしましたが、本ツアーの計画段階では、せつかくなら他協会の皆さんとの交流会を中心にと計画を練っておりました。会員にとっては所属する協会員以外、なかなか接する機会もございませんので、今後落ち着きを取り戻した折には是非実現をさせたいと思います。

「晴耕雨読」という言葉は皆さんご存知かと思いますが、晴れの日には畑を耕し、雨の日には読書をするという言葉です。晴れの日も雨の日もそれぞれにやれる事があるという意識を持てば、どんな状況においてもやれることがあるということです。

高知協会においても、森本会長を中心に今しできないこと、今だからできることを模索し行動をしまります。

日本香港協会の同志の皆さまのご活躍を心から祈念いたします。本年もどうぞよろしくお願いたします。



関西への会員ツアーを催行し懇親を深めました



飛龍

URL <http://www.jhks.gr.jp>

日本香港協会全国連合会 電話 (03) 5210-5901
〒102-0083 千代田区麹町3-4 トラストイ麹町ビル6階
香港貿易發展局内

NPO法人日本香港協会(東京) 電話 (03) 5210-5870
〒102-0083 千代田区麹町3-4 トラストイ麹町ビル6階
香港貿易發展局内

関西日本香港協会 電話 (06) 4705-7030
〒541-0052 大阪府中央区安土町2-3-13 大阪国際ビルディング10階
香港貿易發展局内

中京日本香港協会 電話 (050) 3620-2517
〒460-0003 名古屋市中区錦2-11-27 TH錦ビル8階 株式会社喜斎内

九州日本香港協会 電話 (080) 6450-5827
(事務局長 チェ)
〒810-8629 福岡市博多区中洲2丁目6-10 株式会社ふくや内

山形日本香港協会 電話 (023) 665-1310
〒990-2301 山形市蔵王温泉丈二田752-2
ユニテ蔵王ジョーニダ・リゾート内

北海道日本香港協会 電話 (011) 261-4288
〒060-8661 札幌市中央区大通西3-7 北洋銀行国際部内

宮城日本香港協会 電話 (022) 226-7025
〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-5 第三志ら梅ビル2階西
(株)Sola.com 内

沖縄日本香港協会 電話 (098) 8686-3758
〒900-0033 那覇市久米2-2-10 那覇商工会議所内

広島日本香港協会 電話 (082) 248-1400
〒730-0052 広島市中区千田町3-7-47 広島県情報プラザ3階
(公財)ひろしま産業振興機構 国際ビジネス支援センター内

新潟日本香港協会 電話 (025) 365-0001
〒951-8065 新潟市中央区東堀通一番町494-3 2階 愛宕商事株式会社内

高知日本香港協会 電話 (088) 855-9570
〒780-0056 高知市北本町4-4-7 パールマンション1301
株式会社オルトル内

Man Kee Hong Kong Cafe *At Home!*



鮮蝦雲吞麵や盅頭飯を始めとした文記シリーズは専門食材商社直売の手作りの香港の味。
香港そのままの味をご自宅へお届けします。
文記シリーズをお求めの方は、お電話、メールでお買い求め頂けます。
Amazon shop, Yahoo shopでもお買い求め頂けます。



株式会社ヨネチク
東京都新宿区市谷加賀町2-3-7
TEL:03-3269-7729



Coupon

商品代金10%割引
有効期限：2021.2.28
ご注文の際に本冊をご呈示ください